2015年6月13日
学業と就職についての懇談会

「成長できる名経・就職につながる名経」

―名古屋経済大学が目指す5つの学び―

学長　佐々木雄太

はじめに――大学のあり方が問われている。

例：朝日新聞 2015.6.8「大学改革の行方」
――「変化に対応できる人を」　「教養・実学は対立しない」

１．大学での学びは何のため？

・将来の夢をかなえるために、「社会人基礎力」を備えるために、
　専門領域の知識や技術を身につける。
・社会人として必要な態度や倫理観を身につける。

２．社会に出た時に役立つ「力」は何か？

・世の中が大きく変わりつつある時代には、
　たくさんの知識や技術ではない。
・変化に対応できる「力」、「学ぶ力・考える力」が重要。
　＝それまでに出会ったことのない出来事や問題に遭遇した時に
　　その出来事を分析し、問題解決の道筋を発見できる力。
・「学力偏差値偏重」の「受験教育」の反省
　――「入学試験を多様にして人間力を評価することが必要だ。そうしなければ海外の大学と競争できない。」（東京大学）
＊高校生の８割は「受験勉強」に馴染めない。

このような問題と向き合いながら、本学の教育改革を進めた。

３．学生本位のカリキュラム（授業科目の開設・配置）

＝「学生にとって何が必要か。
　学生に、何を、どこまで、どのように教授するか。」

＜本学が大事にする学びの課題と目標＞

○専門領域の基礎力をきたえます。

変化の時代に、ものをいうのは、たくさんの知識ではありません。
「未知との遭遇」に対応できる基礎的・基盤的な素養をベースにした「自ら学ぶ力・考える力」です。
新カリキュラムは、<u>それぞれの専門領域の基礎を徹底して学びとる</u>ことを目指します。

○「体験的探究」プログラムで主体的な学びをすすめます。

「学ぶ力・考える力」を身につけるには「自ら学ぶ体験」と「主体的な学び」が必要です。「体験的探究」は、キャンパスの内外、犬山市の自然、社会、産業、文化を学びの対象とするフィールドワークです。

学びのきっかけ、学びの課題をつかみ、主体的な学びにつなげます。

○系統的で徹底したキャリア教育で一人ひとりを確かな仕事につなげます。

今日、若者の30%が不安定な非正規雇用を余儀なくされている事実を重く受け止めています。若者が職業(仕事)を通してしっかり社会に根を下ろさなければ、社会の活力は生まれません。

インターンシップを含む系統的で充実したキャリア教育で、確かな社会人力をきたえます。

○資格・検定等を目指す自主的な学びや課外活動をしっかり支援します。

皆さんのキャリアを拓くために、公務員試験をはじめ諸種資格の取得や検定試験への挑戦を奨励し、サポートします。達成感と自信の獲得が次のチャレンジへと導きます。

○地域に根ざしつつ、国際社会につながる大学を目指します。

地域を教育の場とし、地方自治体等と連携して、多様な学びを進めます。

外国人留学生多数の受け入れを進め、大学の国際化・多様化を図ります。留学生との日常的交流は、異文化間の理解と本当のグローバル精神を養います。

４.「成長できる名経」

——すべての学生が「成長の伸びしろ」を持っている、という確信。

・「学力」は人の重要な能力のひとつ。しかし、人の能力は多様。
しかも、その発達の仕方は人それぞれに個性がある。
集団的で一律な教育システムでは育たない(つまずく)場合がある。

・『ビリギャル』が教える「成長」の可能性
——あなたにだって「もともと力」がある。
「きっかけ」や「出会い」が「成長」に火をつける。
「達成感」や「自信」が「成長」を促す。

５.「一人ひとりの学生を仕事につなぐ名経」

——近年、若者の30%が「非正規労働者」という現実を重く受け止める。
＊「非正規働者」の平均年収167.8万円。(「正規労働者」473万円)

・若者が「仕事」を通して社会にしっかり根を下ろすことが重要。
そこで1年生から系統的な「キャリア教育」を重視。

・「キャリアセンター」に教職員をしっかり配置。
アウトソーシングを含めて、公務員試験をはじめ各種資格、免許の取得、検定への挑戦をサポート。

・保護者の理解、家庭の協力が必要。